

CONTENTS

COMBAT

2012.Aug.
No.437

8

Cover Design
Favorite Graphics,
Cover Photo
Robert Bruce,USMC
©WORLD PHOTO PRESS 2012



【第1特集／ミリタリー特集】

004 OPERATION HEART ROCK 2.0

●by Fujiwara

040 USMC PRECISION WEAPONS SECTION

アメリカ海兵隊 精密火器セクション

●Photos&Text by Robert Bruce, USA Military Affairs Editor
●Translation by Yu P. Eiwaikae

058 中東最大の特殊作戦部隊見本市 SOFEX2012

●レポート：清谷信一 (Shinichi Kiyotani)

【第2特集／トイガンレポート】

017 TOKYO MARUI PS90 HC

●Photos&Text by Taku

026 WESTERN ARMS SCREEN PROPERTY SERIES

●Photos&Text by SHOTGUN MARCY

032 WESTERN ARMS ANIMATION CHARACTER SERIES

●Photos&Text by SHOTGUN MARCY

038 COMBAT Recommend DVD
ザ・ユニット 米軍極秘部隊

048 GOODS & ACCESSORY

056 Xbox360Kinect専用タイトル 重鉄騎
Xbox 360 感謝祭 in AKIBA

064 トイガンニュース

064 AW コルトM1911〈100周年記念モデル〉
065 AW コルトM1911〈ゲッタウェイ／ビンテージ・ジエディション〉
065 AW LAPDスワット・カスタムII〈カーボンブラックHW〉
066 AW ベレッタM92FSセンチュリオン〈M:I-2〉
066 AW ベレッタM1934〈ビンテージ・エディション〉
067 AW ベレッタM8045Fクーガー〈カーボンブラックHW〉
067 AW S&W M4013TSW〈HWシルバー〉
068 フロンティア APS-3 フロンティアモデル

069 東京スカイツリー対テロ訓練

●取材／菊池雅之

070 サープラス品いじり技術研究所

●写真・文：織本知之

071 月刊・自衛隊 につぼんのちからこぶ

DETAIL of 自衛隊

●取材／菊池雅之

076 Paris Retro Mobile “水陸両用車 LOVE”

●取材／大矢アキオ

078 NRA Bianchi Cup 2012

●Photos&Text by TOMO HASEGAWA

085 Militaria Roundup!

ドイツ陸軍 1936年型下士官用野戦服

●解説／菊月俊之

096 “ミリ車好き!”京商1/64スケールダイキャストモデル

130 The Equipments of the U.S. Force

【現用米軍装備カタログ】第93回

MLCS/DGLCS/SFLCS特集Part.1

イーグル・インダストリー社最新プレートキャリアMMAC登場

●解説／松原隆 (高知ボンバース) ●撮影／山崎学

074 グラフィックコンバット

ユーロファイター・タイフーンとF-35

●イラスト・解説／坂本 明

142 PRESENT

184 S&Graf 米軍グッズ

186 中田商店グッズ

097 GAME OVER THE TOP!

100 物欲ワンホール Round 11: NRA Bianchi Cup 2012 Part.2

104 レア・ミリタリー・テクノロジー

108 ミリタリー雑学講座

112 ミリタリー・コレクション

114 幻妖中隊 #mod.12 ●by FUJIWARA

116 APSカップ フロンティア公式練習会

117 こちら神保町軍装店

118 A STITCH IN TIME

119 MGストーリー ～小峯隆生のできるまで～

122 蛙のゆびさき (中山 蛙)

124 トイガンズジャンクション

161 バックナンバーリスト

162 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススめ

164 帰ってきた 狩野健一郎の【監督、そこにおっぱいは必要ですか!?】

166 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

168 2012 ショットショー・ジャパン〈春の部〉

169 エアソフトガン・シューティングマッチ アンリミテッド2012

170 狩野健一郎のシネマ放浪記

171 新作DVD紹介

172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



NEW GENERATION STYLER OPERATION HEART ROCK 2.0

Photo & Text : fujiwara [Dazzled Eyes Designs.]

オペレーション・ハートロック2.0 '01-02 アフガン戦争初期リエナクトレポート。

●協賛東京マルイ 中田商店 Gami's ラジオショップ トライズ(旧特小工房)

こんにちは。いつもこのコーナーを担当しておりますfujiwaraです。
今回は去る5月19～20日に岩舟山に於いて開催された、現用装備リ
エナクトイベント「ハートロック2.0」のレポートをおとどけます。

イベントとしては第3回目にあたり、今回はアフガニスタン戦争
初期ということで、2001～02年頃のスタイリングとかなりピンポ
イントなドレスコードとなりました。さすがに10年以上前の装備品が
必要となるため、参加者たちの事前準備は悲喜交々（ひきこもごも）
だったのではないのでしょうか。各参加部隊を紹介していくカタチで、
当日の様子を追っていきましょう。



PS90 HC

テロリスト殲滅のために開発されたPDW(Personal Defence Weapon)、
ハイスサイクルモデルに進化して登場!!



ロングバレルジャケットにOD（オリーブドラブ）のストックという構成は、一気にミリタリー色が増してくる。ぜひオプティカルサイトを搭載したいところ。

近未来映画に登場するレーザーガンのような斬新で独特なデザインを持つサブマシンガンが、ベルギーのF.N.（Fabrique Nationale）社が製造する「FN P90」である。

このFN P90はサブマシンガンのコンパクトさにアサルトライフルの攻撃力を併せ持つ、PDW（Personal Defence Weapon）というまったく新しいジャンルとして開発されたモデル。東西冷戦時代が終りを告げた1989年、核と核による超兵器を持つ者同士の睨み合いからテロ活動のように近距離での戦いが活発になりつつあった。建物の中のような閉鎖された空間では、アサルトライフルのような取り回しにくい大型火器ではなく、コンパクトなサブマシンガンが好まれた。しかし拳銃弾を使用するサブマシンガンでは貫通力が弱く、耐弾性に優れたボディーマーを着用した敵には通用しなくなっていた。そこでボディーマーをも突き抜けるライフル弾並みの貫通力を持ちつつ、それでいて周囲に対しての被害を最小限に留められる新しい弾とそれを使用するコンパクトなPDWの開発が進められた。

開発された年号を取って『P90（プロジェクト90）』と名づけられたこのSMGには、「5.7×28mm弾」というライフル弾と拳銃弾双方の特性を併せ持った特殊弾を使用する。ライフル弾をそのまま短くしたようなフォルムを持ったこの弾は、150m先のクラスⅢボディーマーを貫通する威力を持つという。貫通力に優れた「5.7×28mm弾」だが、実は人体のような柔らかいものに着弾すると、内部で暴れまわり、その後

は内部に留まるという。周囲には優しいが、撃たれた側にとっては危険極まりないシロモノなのである。また弾頭部分の重量が軽く、かつ使用する火薬の量も少なく済むことから、リコイルはサブマシンガンとは思えないほどマイルドで撃ちやすいという。

東京マルイでは、以前よりスタンダード電動ガンのラインナップとして「P90」を発売していたが、今回ハイサイクル電動ガンシリーズの最新モデル「PS90 HC」として登場！

この「PS90 HC」は、民間モデルであるPS90をイメージして製作されている。特徴的なのが、何とんでもこのロングバレル。北米の法律に則り、16インチまで延長したロングバレルモデルとなっている。北米では、隠匿性が高められるという理由から、アサルトライフルやサブマシンガン、ショットガンといった大型モデルの小型化が禁止されている。はじめから小型のモデルはバレルを伸ばすなどし、一定以上の長さがないと販売・所持を禁止している。FN P90もこの法律にバッチリ引っ掛かったため、バレル長を16インチまで伸ばさなければならなかった。そして誕生したのが、このPS90なのだ。オリジナルの長さのP90もカッコよいが、バレルの長くなった「PS90 USG」ってのもなかなか悪くない。

東京マルイでは、これまでに「P90」「P90 TR（トリプルレイル）」と発売しており、この『PS90 HC（ハイサイクル）』でP90は3作目となる。そこで今回のレポートでは、これまでのバリエーションもお借りし、P90特集として紹介していこう。

電動ガンハイサイクルカスタム
PS90 HC
●全長：697mm（ショートバレル選択時550mm）
●重量：1,918g（ショートバレル選択時1,900g）
●装弾数：300発
●価格：¥36,540

PS90 HC

ハイサイクルモデルのウリといえば何とんでも秒間25発を誇る発射サイクルの速さだろう。この驚異的な発射サイクルの速さを実現するため、ギアをはじめ、ピストン、モーターといったメカBOX内部のパーツのほとんどが、スタンダード電動ガンのモノとは異なる。

電動ガンのハイサイクル化を単なるカスタムと思っているユーザーがいるようだが、実はこのカスタムは調整がとて難しい。以前カスタムショップで聞いた話だが、ハイサイクルカスタムは、チョットとしたパーツのズレで正常に動かなくなるだけでなく、パーツが破損することもあるという。そのため電動ガンのハイサイクル化には、より一層気を使うので大変だという話を聞いたことを記憶している。単体でのカスタマイズですら苦勞するハイサ

イクルカスタムを、量産モデルとして発売してしまう東京マルイの技術力の高さはホビー業界の中でもトップクラスだろう。

今回は民間バージョンのPS90がモデルとなっているためロングバレルを装着しているが、実はインナーバレルの長さはスタンダード電動ガンと変わらない。アウターバレルは、工具なしで簡単に付け替えられるので、ロングアウターを外し、フラッシュハイダーのみ装着したショートモデルやサイレンサーなどに交換して楽しむなんてことも可能だ。またアルミ削り出しのオリジナルのフラッシュハイダーも付属している。

多弾数マガジンもハイサイクル化に合わせて改良が施された。ハイサイクルカスタムの場合、発射の速さにマガジンの弾を送るスピードがつかないため、給弾不良を起こしてしまうことがある。改良型マガジンでは、ハイサイクルのスピードに合わせてカス

タマイズを施し、給弾不良などといったトラブルを気にすることなく快適な射撃を楽しめるように調整されている。

発射サイクルが速いということは、セミオートのリスポンスのよさにも繋がってくる。フルオートばかりが注目されるハイサイクルモデルだが、実はセミオートのリスポンスのよさを忘れてはならない。サバゲではフルオートの使用頻度が高いが、シューティングマッチではセミオートがほとんどとなる。近頃は長モノを使用したシューティングマッチの開催も増えており、そうしたイベントでリスポンスのよいハイサイクルモデルは重宝されている。

サバイバルゲームからシューティングマッチまで、オールジャンルで使えるハイサイクルモデルは、次世代やスタンダードといった電動ガンとは違うまったく新しいジャンルなのだ。

コンパクトなハイサイクル電動ガンをコレクションのひとつに加えてみてはいかがだろうか。



スラリと伸びたバレルの先端にはフラッシュハイダーを装備している。それぞれのパーツは14mmの逆ネジで取り付けられており、好みや用途に応じて長さを変えられる。



ロングバレルジャケットを外してフラッシュハイダーだけを装着すればオリジナルとはまた違った雰囲気になる。すべてを取り外してサイレンサーを直接装着すれば、アッという間にTRに変身だ。

USMC PRECISION WEAPONS SECTION

アメリカ海兵隊 精密火器セクション

●Photos & Text by Robert Bruce, USA Military Affairs Editor
●Translation by Yu P. Eiwaikee

「我々はこのサンジン地区のタリバンの連中に打撃を与えた。こっちも幾らかは食らったが、連中にかなりの打撃を与えた——特にスナイパーたちが。我々がここに来るまで、この地区に海兵スナイパーは配置されていなかった。ここ4ヶ月ちょっとで我々は敵の○○○○（検閲により削除）にEKIA（敵方の作戦行動中戦死）を与えた。すべての海兵が「どうにかしてやった」のだ。中でもスナイパーたちは特別デカイのをお見舞いしてやったよ」——リッチ・バークレー海兵大尉／第5海兵連隊（増強）第3大隊司令部作戦参謀部作戦参謀（ヘルマンド州サンジン地区担当）



2010年12月、ヴァージニア州クワンティコ——兵装訓練大隊の閲閲施設が広がっている地区の一角だけ鉄条網を巡らせたフェンスで囲われている。ここに精密火器部門が置かれた「ハーリー・ホール」である。このホールは海兵ライフル射撃技能の基準策定を行なったウィリアム C.ハーリー准将にちなんでいる。看板のには係士官（責任者）がCW04フィーニーとなっているが、取材当時の段階ですでに彼はCW05への昇進が確定していた。係先任下士官はホーファート主任掌砲軍曹である。

2011年1月21日、アフガニスタン、ヘルマンド州——サンジン地区の作戦中にM39EMR（俗にEBRと呼ばれているモデル）を構えるジョーダン・ガーバー伍長。ガーバー伍長は第2連隊戦闘団第5海兵連隊第3大隊中隊司令部付きのスカウト・スナイパーである。海兵隊のM39はすべて精密火器部門で組み立て・調整されている。〔USMC photo by Corporal David Hernandez〕

ピアンキカップが開催されるチャップマンアカデミー射撃場。その駐車場から向かって右側からバリケイド、プラクティコウ（正面）、プレイト（左）、その向こうにムーバーがある。会場には歴代のチャンピオンとその時の優勝点数を記した旗が展示された。

BIANCHI CUP 2012

“ピアンキカップ”
“精度”と“スピード”。

2大要素を兼ね備えた天下一射撃大会。
唯一無二の試合を“自己鍛錬の場”として、ピアンキカップを軸に我々の1年は巡る。
今年もこの舞台に帰ってきた!

Photos & Text by Tomo Hasegawa

今年もピアンキカップがやって来た。

射撃技術や道具である銃の工夫など、試合を攻略するための思考。なにより試合本番での緊張感にさらされ、身体中の細胞が入れ替わるような刺激は堪らなく魅力的。“人生の道場”その魅力に取り憑かれ、イチローさんの下でこの試合に出場するようになってから今年で22回目。飽きるところがますますピアンキカップが魅力的に思えてきて頑張ってます。

“精度”と“スピード”。その両方が高次元で必要な、優れた設定の4ステージ「プラ

クティコウ」「バリケイド」「ムーバー」「プレイト」。その合計得点で競われる射撃世界一決定戦。満点1920点。同じゴールを目指す仲間が一堂に会する。

なにせ、ここ数年の世界的に深刻な経済不況。出版業界のダメージも深く大きく、トモのピアンキカップもいつ出られなくなるか？ まったく解らない状況が続いているわけです。

ライターとしての活動は個人経営者。過去に2回だけスポンサードを受けたことがあるものの、それ以外の日本国内外の試合

出場は、交通費や滞在費、ガン代、弾代などの経費は当然ながらすべて自腹。いつ出られなくなったとしても悔いが残らないよう、以前よりも練習時間を長くにとって、ピアンキカップをより大切に撃ちたいと思い始めた。さらに、今回は新たな挑戦者が加わることもあって、その分も練習時間を長く設定する必要があった。

45歳のシンデレラボーイ

『エアースoftガンのチャンピオン達がピアンキカップを撃ったら、どのくらいの成績が出せるのだろうか?』

昨年のピアンキカップの時イチローさんから話があった。USスティールチャレンジでのマック堺の活躍を筆頭に、日本人エアースoftガンシューターの活躍には素晴らしいものがある。また、タクティカル訓練でもエア

名シューターのひとりジョン・プライド。大病を乗り越え、ピアンキカップに復帰!



プレイトは1発外せば10点のマイナス。以前クリーンでできていたから大丈夫……なんて安心してきないところがピアンキカップの怖くて、面白いところだ!



ソフトガンでの訓練の有効性を知っているだけに、ピアンキカップでは通用するのか? 我々にとっても以前から興味があった。日本のピアンキスタイルのマッチで上手いシューターはふたりに絞られる。という点で石井健夫とトモの意見は一致していた。

帰国後、さっそく打診してみると、ひとり時間は都合が難しいという返事。ピアンキカップは他の試合にくらべ試合日程も長く、練習期間も3〜4倍以上必要だ。未経験者となると各コースのルールを覚えるだけでもさらに時間が必要になる。最短40日。できれば2ヵ月以上あることが好ましい。



スコットランドの伝統的なスカット状の衣装“キルト”。これを履いて出場のシューター、女性シューターに囲まれる。

グランドシニアの元気鋭刺シューター“ジョン・サンデーズ”さん。来年70歳を向かえるイチローさんがグランドシニア入りで、ますます盛り上がる。



社会人として働いている者にとっては、金銭面よりも時間の工面が最大のハードルといえるだろう。家族と生活がキープできることが優先課題。無理強いはいできない。

もうひとりの候補者は毛利順裕さんだった。「憧れのピアンキカップですから、そりゃ出たいです。初めての実銃。それもいきなり大舞台。無謀な挑戦かも知れませんが、ぜひお願いします」

誰にでも初めてはある。ちょっと前に仕事を辞めたばかり。無職という今のご時世辛いモノがあるが、おかげで時間は工面できる。必要なお金は「定期を崩します」という具合に、チャンスを根性で具体化。ピアンキカップ出場が決まった。

毛利さんのトイガンマッチ経験は約30年。

ピアンキチャンピオンのひとりとして、名物シューターの“ブルース・バイアット”さん。バリケ射撃時のグリップングが独特。



参加シューターの出身国旗。アメリカをはじめ8カ国から参戦。

練習を積み重ねてきた実力派。とくに石井健夫が主宰するプレイトマッチでは、初代名人として優勝、トータル3回のクリーンを達成。さらに毎年11月に開催される掛川ピアンキでも、上位入賞の経験がある。“毛利名人”として、日本エアースoftガンマッチ界でよく知られている。

しかし、実銃はまったくの未経験。毛利さん本人は不安がるが、むしろ実銃射撃の経験がない方が素直に取り組めるという面もあるのだ。かくして“45歳の実銃童貞男